

築地本願寺 (国指定重要文化財)

📍 築地3-15-1



🏛️ 文化財 🏛️ 記念碑

🏛️ 築地本願寺は、昭和9年(1934)に建築家・伊東忠太が設計した鉄骨鉄筋コンクリート造(地上2階・地下1階)の建物です。外観は古代インドの建築様式を採り入れ、内部は伝統的な浄土真宗寺院の形式となっています。花崗岩が用いられた本堂は、各部の秀逸なデザイン(正面入口の破風、柱頭装飾、銅板葺きの円形屋根、左右の翼部に置いた仏塔形状の塔屋など)が一体となり、全体として調和のある外観を創り出しています。

酒井抱一墓 (東京都指定文化財)

📍 築地3-15-1 築地本願寺境内



🏛️ 江戸時代後期の画家・俳人である酒井抱一は、播磨国(現在の兵庫県)姫路藩酒井家の出身です。寛政9年(1797)に西本願寺第18世文如上人のもとで得度を受け、難髪隠居後に本格的な文人生活に入りました。尾形光琳に私淑し、粋で洒落な独自の画風(江戸琳派)を確立しました。

土生玄碩墓 (東京都指定文化財)

📍 築地3-15-1 築地本願寺境内



🏛️ 江戸時代後期の眼科医・土生玄碩は、奥医師として將軍の眼病治療にも当たりました。シーボルトから散瞳薬(瞳孔を散大させる薬)の製法を学び、謝礼に將軍拝領の葵紋服を贈ったことが発覚して罰せられました。眼球(白内障)手術を行い、実証的な西洋医学を研究した人物です。

波除稻荷神社の天水鉢 (中央区民文化財)

📍 築地6-20-37



🏛️ 波除稻荷神社の南には、江戸時代に尾張藩の蔵屋敷(旧築地市場跡地の南半分)がありました。本殿前の天水鉢(釜屋六右衛門の鑄造)は、天保9年(1838)に尾張徳川家の蔵屋敷で働く小揚人足(尾張藩船からの船積荷物を陸揚げする作業者)が航海安全を祈願して奉納したものです。

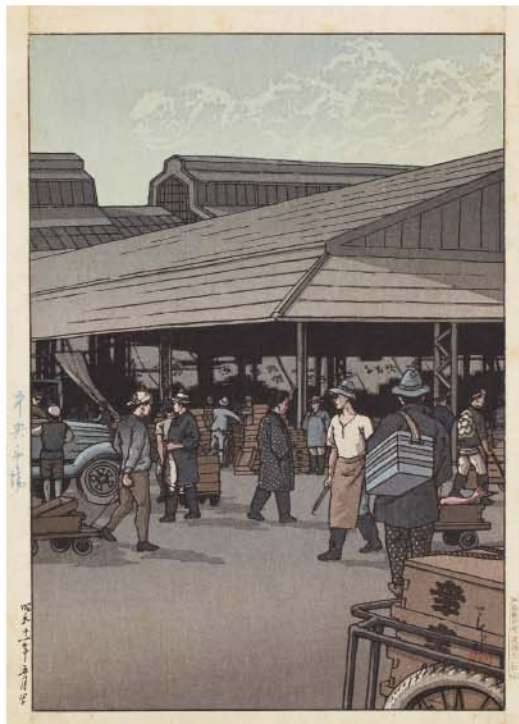
旧浜離宮庭園 (国指定特別名勝特別史跡)

📍 浜離宮庭園1-1



🏛️ この庭園は、徳川將軍家の鷹狩場、甲府藩主・松平綱重の下屋敷を経て、6代徳川家宣の大改修で將軍の別邸「浜御殿」となりました。その後も造園や整備が進められ、潮入りの池をもつ名園が完成しています。明治維新後は「浜離宮」(宮内省)、戦後に恩賜庭園(東京都)となりました。

歴史「モノ」がたり



Episode 6

新東京百景 中央市場

昭和11年(1936) 川瀬巴水/画

昭和10年(1935)に日本橋魚河岸と京橋大根河岸(青物市場)の機能を併せ持つ「中央卸売市場」が築地の地へ新設・開場されました。この版画には、開場から間もない築地市場内の売り場の様子とそこで働き行き交う人びと(卸売・仲買・小売)の日常的な風景が写し取られています。作者の川瀬巴水による鋭い観察眼と類まれな表現力によって、市場内を包む空気や周囲の音までもが感じられるような作品です。

収蔵品アーカイブズ

<http://www.chuo-museum.jp>